

# 徳島大学病院 地域医療センターのご紹介

地域医療センター長  
梶龍児 かじりゆうじ

大学病院の重要な使命に地域医療への貢献があります。近年卒業後徳島に残る医師が減少し、若い勤務医・専門医の急速な減少から地域医療の崩壊が危惧されています。徳島大学は県で唯一の医学部を持ち、四国でも最も歴史のある大学であります。開校以来の卒業生も多く、徳島市は全国でもトップクラスの人口当たりの医師数を誇っておりますが、一部の科で専門医の不足が深刻になっております。当センターは次の業務をおこなって、より円滑な病院運営とされる地域医療への貢献を目指しております。

## 1 入院・外来患者様の在宅療養上の相談

■ 病院情報提供、病院紹介、介護用品、病気の不安などにしつこの相談。

## 2 医療福祉相談

■ 福祉制度、治療費の相談、苦情に関するもの等。  
■ 診療情報の提供を希望される患者様の開示請求についての相談。  
■ 独立行政法人等の保有する



「まちの保健室」  
<http://soudan.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/machiken/main/index.php>

個人情報保護に関する法律に基づく医療情報の開示請求についての相談窓口。

## 3 地域医療機関との連携

■ FAX予約、病院や保健所等との連携。

## 4 退院前訪問看護

■ その他地域医療への貢献  
■ 地域保健医療、福祉及び在宅医療の研究指導に

関すること。  
■ まちの保健室等で情報提供。特に「まちの保健室」は全国でも例を見ないインターネット医療相談窓口で多数のアクセスをいただいております。ぜひご利用ください。

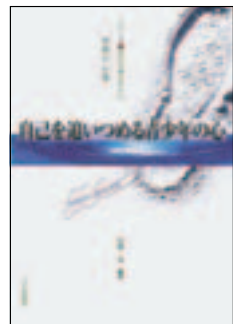
## マイブック「自著紹介」

# My Book

わが国の自殺者数が毎年3万人を超えるようになって、数年が経ちます。中高年の自殺が増加する一方で、青少年の自殺もまた深刻な状況にあります。2006年には、いじめを苦にした青少年の自殺がマスメディアでも大きく報じられ、社会問題となりました。他にも、最近では自殺系サイトなどを通じた青少年の集団自殺が問題となっています。

本書は、自殺の危険性のある青少年の心に焦点を当て、その現状や具体的な対処法について述べたものです。自殺は「いじめ→自殺」のような単純な因果関係でとらえられるものではありません。また、近年、青少年の生命や死に対するとらえ方が、かつてよりも未熟なものとなり、

『シリーズ 荒れる青少年の心  
自己を追いつめる青少年の心』  
出版社：北大路書房  
定価：1890円  
発刊日：2005年9月10日  
総合科学部人間社会学科人間科学講座  
石田弓 いしだ ゆみ



短絡的に死を選びやすくなっている印象もあります。そして、その背景には青少年を取り巻く社会環境の影響もありそうです。こうした事情をよく知らずして、自己を死に追い詰めようとする青少年に、「自殺はいけない！命を大切に！」などと言っても、説得力をもちたいかもしれません。もちろん、本書を読むだけで自殺を予防できるわけではなく、最低限の知識と関心はもっておきたいところです。そのため、本書は多数の「ラム」も設け、自殺について様々な視点から解説し、心理学の知識をもたない保護者や学校関係者にも分かりやすく読めるよう配慮しました。現代の青少年の自殺に対する問題意識をより多くの人々と共有し、ともに考えていくことができれば幸いです。

取材

# 数学の楽しさを伝えたい



大学院シオテクノサイエンス研究部 情報数理科学講座  
長町重昭 ながまちしげあき

理工系でなければ関数や方程式など、高校までに学んだ数学はすっかり忘れてしまった、数学はいつも苦手、という方は多いと思います。実は長町先生も、「高校までは数学が嫌いでした。大学に入ってそれまでの数学と全然違うことを知り楽しくなりました」

専門は関数解析、数理論理。つまり物理を数理で説明するところからスタート。  
「物理や科学は数学を使わないと説明できない世界です。誰もが同じように理論的に納得できるのが数学の面白いところ」

授業は前期は「Ⅲ「マ」、後期に「Ⅳ」

「何年も同じ講義をしていると一口一ターのうちに機械的に同じようなことをしゃべっているだけになってしまってますから」

ルで、少しでも損を出さないようにするための方程式などを学びます。これは日本人数学者、伊藤清（現在京都大学名誉教授）氏が1942年に創始された確率微分方程式論で、2006年8月22日マトロイド国際数学者会議において、ガウス賞が贈られたものです。

「確率論は、例えば選挙の正確の出し方など身近なところにあることなので、計算ばかりでなく、おもしろい話もできるように工夫したいと思っています」

長町先生は趣味でエッセイを学んでいて、世界大会にもなるべく参加しています。二年前のリトアニアの大会では、先生ご自身がエッセイで数学の話を書かれたそうです。

「話の後、女性の方がやってきて、あなたの話は難しくなくてさっぱりわかり

徳島大学の教育力  
魅力ある授業

なかつたけれど、とても楽しそうであなただけが数学が好きだということだけはわかりました」

今年、横濱で大会があり、多くの方と



の交流を楽しみにしています。数学も語学も、何事も、楽しければ学ぶことは苦痛にはなりません。「私が大学に入って数学を好きになったように、私の授業でも学生たちに数学の楽しさを伝えられたらと思っています。そして物事を深く考えられるようになってほしいです」



受講生のコメント  
取材の時点では、まだ数回の講義なのですが、親しみやすく、わかりやすい授業です。時々、計算式などが速くて、もう少し説明してほしいなと思うところもありますが、とても熱心な先生です。欠席して遅れているところも、最初に復習してくれるので助かります。

## 春号特集「春ですーようこそ徳大へー」を読んで

- 徳大で学ぶよるこびが、日々夢を身近にはぐくむことができるはげましがあります。
- 新入生にとって明日からの学生生活に直結する情報、アドバイスが掲載されていてとてもいいと思います。
- あれこれ取り込みすぎではないですか。徳島を観光パンフレットのように紹介する必要があるのかどうか。
- 春、新たなスタートを切る人々にとって、もう一度徳大の置かれている環境のよさ、徳島の魅力を知る上で興味深いものです。
- 読みやすく作られていましたが、レイアウトはもう少し工夫できるかとも思いました。
- 新入生を歓迎する気持ちが伝わってくる内容で良かったです。特に「学生相談室があたたかく応援します。」は時宜を得た内容で良かったと思います。

## とくtalkへのご意見

- 今後も身近な学内・学外の先輩の生き方をレポートしていただけたらと思いました。すばらしい業績等にこだわらず、そういう思考、どういう決断で今にいたっているかを知ること、後輩にとって、大学にとってプラスになることと思います。→これから学内外の先輩からの徳大に対する力強いエールを取り上げていきます。
- リーダーとしての徳島大学と地域社会との結びつきが期待される。阿波文化や地域産業に徳島大学が貢献している記事があっても良いのでは。→貴重なご意見ありがとうございます。今後取り上げたいと思います。

## 読者の言葉